

単体サーバのアップグレード手順（2017.2 -> 2019.1）

説明

単体サーバでのアップグレード手順（2017.2 -> 2019.1）は以下の通りです。
※パッケージインストールではない場合の手順となります。



重要

- ・LinuxOSでの作業手順です。
- ・Helix Coreサーバを起動しているOSユーザが"root"として説明を行っています。
"root"以外のユーザで実行している場合、環境に合わせてコマンド実行ユーザと権限設定をお願いします。
ご不明の場合は、作業前にテクニカルサポートまでご連絡ください。

手順

1. Helix Coreサーバの停止

以下のコマンドから、Helix Coreサーバを停止します。

実行コマンド

```
# p4 -p server:port -u super admin stop
```

- * **server:port**には、アップグレード対象のHelix Coreサーバを指定します。
- * **super**には、super権限ユーザを指定します。

2. チェックポイントの取得

p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

実行コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -jc
```

- ***P4ROOT**には、環境に適したパスを指定します。

3. p4dプログラムのバックアップ

既存の"p4d"プログラムをバックアップします。

バックアップコマンド例

```
# mv /usr/sbin/p4d /usr/sbin/p4d_20172
```

- *ここでは、既存の"p4d"プログラムが**/usr/sbin**に配置されている前提とします。

4. p4dプログラム (Ver.2019.1) のダウンロード

ダウンロードサイトから"p4d"プログラム (Ver.2019.1) をダウンロードします。
この手順では、"p4d"プログラムを**/tmp**へダウンロードした例として説明します。

ダウンロードサイト

[Helix Core \(Perforce\) 製品ダウンロード](#)

5. パーミッション設定

ダウンロードした"p4d"プログラムへ実行権を追加するため、以下のコマンドを実行します。

パーミッション設定コマンド例

```
#chmod +x /tmp/p4d
```

6. p4dプログラム (Ver.2019.1) の配置

手順4でダウンロードした"p4d"プログラム (Ver.2019.1) を**/usr/sbin**配下へ配置します。

配置コマンド例

```
# mv /tmp/p4d /usr/sbin
```

7. p4dバージョンの確認

以下のコマンドを実行し、p4dバージョンがアップグレードされていること、コマンドパスが通っていることを確認します。

バージョン確認コマンド例

```
# p4d -V
```

期待する結果

```
...  
Rev. P4D/LINUX26X86_64/2019.1/1865205 (2019/10/11).  
License: none
```

8. Helix Coreデータベースの更新

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -xu
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

期待する結果

```
2018.1: removing existing db.graphindex.  
2018.2: Initialize Extensions depot and server.extensions.dir.  
2018.2: Normalize a field in the triggers table.  
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx  
2019.1: Adding default namespace to Extension configurations ...upgrades done
```



注意

データベーステーブル"db.rev"関連の情報が多い場合、一時的にコマンドの応答が遅くなる場合があります。コマンドを強制終了しないように注意してください。

- 対象メッセージ
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx

9. Helix Coreサーバの起動

通常手順でHelix Coreサーバを起動します。ここでは、起動コマンド例を紹介します。

起動コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d
```

*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

10. Helix Coreバージョンの確認

以下のコマンドを実行し、起動中のHelix Coreサーババージョンがアップグレードされていることを確認します。

バージョン情報確認コマンド例

```
# p4 -Ztag info
```

期待する結果

...
Server version: P4D/LINUX26X86_64/2019.1/1865205 (2019/10/11) ...

11. "db.storage"の構築状況確認

Ver.2019.1から、新しく"db.storage"テーブルが追加されました。
このテーブルは、バージョンアップ後にHelix Coreサーバを起動するとともにバックグラウンドで構築が始まります。
構築状況は、以下のコマンドから確認できます。

構築状況確認コマンド例

```
# p4 -u super -p server:port storage -w
```



補足

200 GBを超えるdb.revテーブルがある環境では、完了までに数時間かかる場合があります。

構築終了時には、以下のコマンド結果を返却します。

終了時の返却メッセージ

The storage upgrade process is complete.

アップグレード手順は以上となります。